

東部っ子タイム縦割り創作遊び

本校では、水曜日の昼休みを清掃なしの「ロング昼休み」とし、そのうち月2回程度、異学年縦割りのなかよし活動班での活動「東部っ子タイム」を行っている。その活動の中で、年4回創作遊びを行った。日時と活動内容は、以下の通りである。

《令和5年度》

第1回 7月12日 切り紙遊び

第2回 10月4日 モビールづくり・花もちづくりのいずれか

第3回 11月22日 モビールづくり・花もちづくりのいずれか(第2回でしていない活動)

第4回 1月31日 スチレン版画 (家庭から白いトレイを持ち寄って)

第1回の切り紙では、各自が切り方の例を参考にしながら、3回折りにした小さな色紙を思い思いに切込みを入れて広げ、模様をつくっていった。その模様を6年生の班長を中心にして黒い台紙に貼っていった。子供たちは、思い思いに切ったものから、どのような形ができるのかを楽しんでいた。また、各班の作品を職員室前に掲示した。その作品を見ながら、「切り紙を重ねるともっときれい」「これはどうやってつくったのだろう」など、自分たちが考えなかった切り方や貼り方に関心を示していた。

第2、3回のモビール、花もちづくりでは、活動への見通しをもつことができるよう、子供が目にする玄関前に見本を掲示した。そうすることで、全員が活動のゴールのイメージをもち、活動を円滑に進めることができた。花もちづくりでは、白い紙粘土に色を混ぜて思い思いの花もちをつくって楽しんでいた。また、「モビール」づくりでは、第1回の縦割り図工でつくった切り紙の作り方を生かして、モビールに貼る飾りをつくり、見本を参考にバランスを意識しながらモビールをつくっていった。完成した花もちは、児童玄関前や廊下に掲示し、モビールは、図工室天井に吊り下げ、子供たちが日常的に鑑賞できるようにした。

第4回のスチレン版画づくりでは、家庭から持ってきたトレイを四角形に切り、それに鉛筆で模様をかいてスタンプにし、班で一つの作品をつくった。6年生の班長を中心に班で模様を考えて作品を仕上げた。

このような活動の中で、子供たちは異学年で協働的につくりだす活動を楽しむことができた。また、子供たちが鑑賞できる場に掲示したことで、互いの作品のよさに気付いたり、認め合ったりする姿が見られた。



【切り紙工作をする子供】



【できあがった作品を見る子供】



【切り紙でモビールづくり】



【紙粘土で花もちづくり】

《令和6年度》

- 第1回 6月19日 五箇山和紙を使ったちぎり絵
第2回 7月17日 かんたんステンドグラス・紙染め遊びのいずれか
第3回 10月23日 学校を飾ろう ステンドグラス大作戦（予定）

令和6年度第1回の五箇山和紙を使ったちぎり絵では、南砺市の特産物五箇山和紙を使ってちぎり絵を作成した。子供たちは、6年生の班長があらかじめ考えた下絵を基に、和紙を手でちぎって台紙に貼り、花や風景、花火等をモチーフにした作品をつくった。子供たちは、地域で大切にされてきた材料の手触りや質感を感じて、はさみと違う手で和紙をちぎる感覚を楽しんでいった。また、和紙がきれいに接着するように、糊の濃淡を考えながら貼っていった。

第2回のかんたんステンドグラスでは、切った厚紙にラミネートフィルムを貼り、プロッキーで模様を描いた。また、紙染め遊びでは、正方形の障子紙を三角や四角に折って輪ゴムでとめたものを作って好きな部分を絵の具に浸し、紙を開いて乾かした。子供たちは、にじんでいく紙の色の重なりを楽しんでいた。また、紙を開いたときの作品の出来ばえの意外性に歓声を上げていた。つくった2つの作品は、図書室の窓ガラスや吹き抜け部分に貼るなど、掲示物として図書室に飾ることで、子供たちも「自分たちがつくったものでかざると楽しいね」と生活を豊かにする活動に喜びを感じていた。また、吹き抜けの空間に色を感じられ、「図書室が明るくなったね」と変化を楽しんでいた。今回は、2種類の活動を準備し、子供たちが選択できるようにした。2学期は、少しずつ自分たちの手で造形遊びや作品づくりを行い、自分たちの作品で生活を豊かにできることを実感するようにしたい。



【ステンドグラスをつくる子供】



【ちぎり絵を貼る子供】



【紙染め遊びの掲示】



【紙染め遊びの様子】